

観光地・北野における景観分析

竹内 陽¹・吉川 眞²・田中一成³

¹学生会員 大阪工業大学大学院工学研究科都市デザイン工学専攻博士前期課程
(〒535-8585 大阪市旭区大宮5-16-1, E-mail:takeuchi@civil.oit.ac.jp)

²正会員 工学博士 大阪工業大学工学部都市デザイン工学科
(〒535-8585 大阪市旭区大宮5-16-1, E-mail:yoshikawa@civil.oit.ac.jp)

³正会員 博士(デザイン学) 大阪工業大学工学部都市デザイン工学科
(〒535-8585 大阪市旭区大宮5-16-1, E-mail:issey@civil.oit.ac.jp)

神戸の代表的な景観が選定されている「神戸夜景百選」を類型化すると山側や高層ビルを視点場とした眺望型、展望型が神戸の典型的な見方であるといえる。そのなかでも北野地区は、開港から設置されている「港見晴台」があることから典型的な視点場であり、また異人館を中心に観光地として賑わいをみせていることから対象としての役割も担っている。そこで、北野地区について伝統的建造物群保存地区と観光地のふたつの観点から分析をおこない、その特徴を見いだしている。

キーワード: 眺望景観, 伝統的建造物群保存地区, 観光地, 異人館, 可視・不可視分析

1. はじめに

神戸は、1858年に日米修好条約により開港された5港のひとつである兵庫港（現在の神戸港の一部）の開港に伴い、急激に発展していった都市である。他の大都市と同様に高度経済成長の影響を受け、利便性や合理性に基づいた街並み形成がおこなわれたのはいうまでもない。しかし、神戸は、短い歴史の中で積み重ねた独自性に気づき、いち早く個性ある景観を創造する取り組みがおこなわれた都市でもある。

神戸市では、市を挙げてその都市の美しさを保全・活用しようと1978年に神戸市都市景観条例が制定され、1980年には日本ではじめて種別「港町」として北野・山本通地区が「重要伝統的建造物群保存地区」に指定されるなど、景観に対する意識の高さがうかがえる。

現在では、歴史的建造物の保存・活用といったことはもちろん、2006年では、空港が開港するなど港湾都市として著しい発展を遂げている。市街地と港が近いことからハーバーランドやメリケンパークといったウォーターフロントも形成され、2003年に神戸市が実施したイメージ調査でも「港」が30.2%であることから、いまなお港町として称されている。また、日本三大夜景の一つである摩耶山掬星台からの眺めは、その俯瞰に収まる世帯の1日の電気代を導きだし、一帯で約1,000万ドルであるという結果から「1,000万ドルの夜景」といわれており、全国的に有名である。

2. 研究の経緯

(1) 神戸の典型的な景観の把握

先行研究では、神戸の代表的な景観が選定されている「神戸夜景百選」を類型化することで典型的な景観を抽出した(表-1)。典型的である「視点依存型一拡散型」の夜景には、山側の展望台や市街地内の高層ビルからの眺めなどの俯瞰景観、比較的視点が低い街路上からの眺めである水平／仰瞰景観(図-1)がある。とくに多く選定されている中央区をはじめ、灘区、東灘区での視点依存型一拡散型タイプの夜景は32件であり、そのうち25件が俯瞰景観となっている。また、山側から眺めるもの(図-2)が15件、市街地内高層ビルから眺めるものが5件、人工島内高層ビルから眺めるもの(図-3)が5件とわかることができる(図-4)。このような視点依存型一拡散型タイプでも俯瞰景観の25件について各夜景の視点からの眺めの可視領域を割り出すことで見え方を把握している¹⁾。

表-1 行政区ごとの典型的な景観の選定数

行政区	タイプ	視点依存型 一拡散型	視点依存型 一凝集型	集合型 一拡散型	集合型 一凝集型	合計
垂水区		10	(10)	0	1	11
須磨区		4	0	0	5	9
長田区		1	0	0	0	1
兵庫区		1	0	0	1	2
中央区		20	4	11	11	46
灘区		8	1	0	1	10
東灘区		4	2	4	3	13
北区		2	2	1	1	6
西区		1	0	1	0	2
合計		51	9	17	23	100

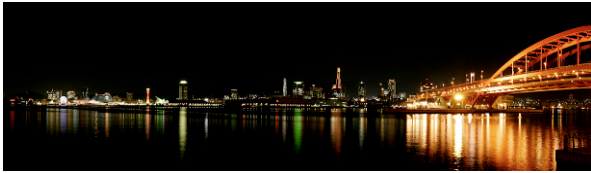


図-1 低い視点からの水平/仰視景観
(ポートアイランド北公園から)

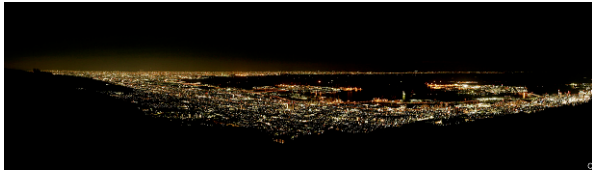


図-2 山側から俯瞰景観 (摩耶山掬星台から)

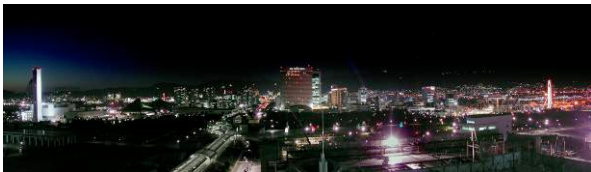


図-3 人工島の高層ビルからの俯瞰景観
(神戸キメックセンタービルから)



図-4 各タイプを代表する夜景の視点位置

(2) 可視・不可視分析

可視・不可視分析に必要なDSMデータの構築のため、3次元都市モデルを作成した。3次元都市モデルは、数値地図50mメッシュ（標高）から生成したTIN（地形モデル）、DMデータ内にある標高値を参考に作成した建物と高架橋の簡易モデル（地物モデル）からなる（図-5）。それらを5mグリッドのDSMにラスタ化することで可視・不可視分析をするためのデータ構築をおこなった。可視・不可視分析では、各夜景の視点からの可視領域を割りだし、視点場ごとに可視頻度を算出した。可視頻度の高いほど色が濃くなるように表現しており、図-6では、人工島である六甲アイランドをはじめ大阪湾岸を眺望できる視点、市街地内高層ビルから眺める視点は図-7であり、人工島内高層ビルからの眺める視点が図-8である。このような結果から神戸の典型的な景観は、神戸港をはじめ、海や山という構成要素とともに神戸市街地も一望できるといった特徴をもっている。

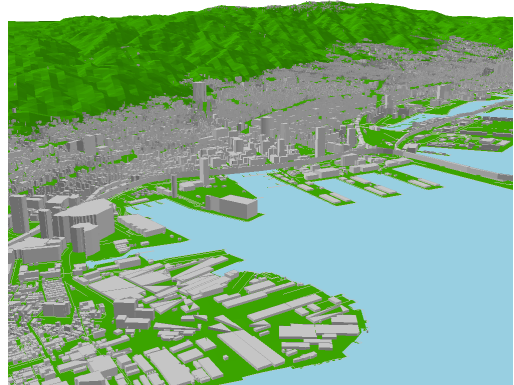


図-5 3次元都市モデル

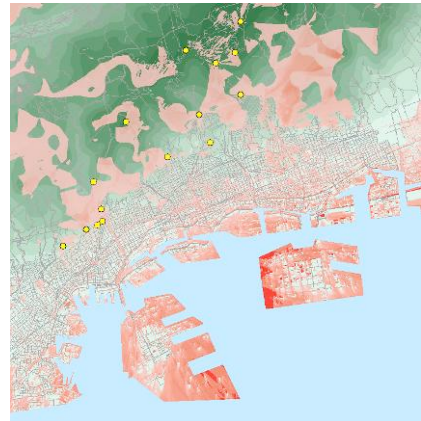


図-6 山側から市街地とともに港を眺望できる（15視点）



図-7 山、市街地、港を眺望できる視点（5視点）

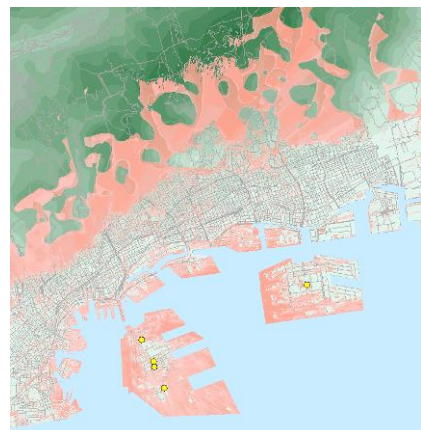


図-8 人工島から市街地とともに山を眺望できる視点（5視点）

(3)神戸の典型的な視点場

神戸の典型的な景観は、高層ビルや展望台といった視点場からの眺めである「視点依存型－拡散型」であるといえ、なかでも山側からの眺めは、市街地とともに大阪湾岸を一望できることから多く選定されている。そのため六甲山系には、展望施設やホテルといった視点場が設けられており、多くの観光雑誌に紹介され観光客を魅了している。

このタイプのひとつである北野地区では、「集合型－拡散型」も選定されている地区であり、異人館をはじめとした歴史的建造物を中心に対象としての役割を担っている。この地区は、神戸市がおこなった観光動向調査の結果からも神戸でもポテンシャルの高い地区であることがわかる（表-2）。そこで典型的な視点場でもあり、対象としての価値も持ちあわせている神戸・北野地区を詳しくとりあげることとした。

表-2 観光動向調査結果

	港	異国情緒	ファッション	六甲の山と緑	グルメ	その他
東京	25.0%	33.7%	12.0%	20.3%	2.0%	7.0%
仙台	29.8%	35.5%	17.4%	6.0%	6.7%	4.7%
福岡	36.1%	16.7%	17.2%	9.2%	9.2%	11.6%
総合	30.2%	28.7%	15.6%	11.9%	5.9%	7.7%

＜都市像＞

	観光都市	国際港湾都市	ファッション都市	コンベンション都市	工業都市	その他
東京	32.1%	37.9%	19.5%	2.4%	1.0%	4.1%
仙台	48.3%	26.0%	15.7%	3.0%	4.3%	1.0%
福岡	37.1%	24.7%	26.5%	2.1%	2.1%	2.4%
総合	39.3%	29.5%	20.5%	2.5%	2.5%	2.5%

＜代表する観光地＞

	北野異人館	三宮・元町	六甲・摩耶	メリケンパーク・港	ポートアイランド	六甲アイランド
東京	25.1%	27.5%	16.6%	3.7%	3.7%	2.4%
仙台	21.1%	10.5%	13.3%	11.9%	11.2%	5.8%
福岡	17.0%	14.8%	14.1%	8.8%	8.1%	11.3%
総合	21.1%	17.7%	14.7%	8.1%	7.7%	6.4%

＜行ってみたい所＞

	有馬温泉	北野異人館	六甲・摩耶	明石海峡大橋	ポートアイランド	六甲アイランド
東京	95件	82件	80件	58件	16件	26件
仙台	56件	80件	47件	47件	86件	52件
福岡	91件	44件	40件	40件	53件	61件
総合	242件	206件	167件	167件	155件	139件

3. 研究の目的と方法

この地区の成り立ちとしては、開港から外国人専用住居地である居留地が整備されはじめ、同時期に港に出入りする船の状況を確認するための「港見晴台」が山手に設置された。後に住居不足を補完するための雑居地が港を眺望できる急斜面を好み、港見晴台が設置された北野地区に形成された。この「港見晴台」は今もなお現存しており、当時から北野地区を視点場とし港を眺めていたことが考えられる。このような典型的もしくは代表的である北野地区を対象に詳細な分析へ展開することで、より神戸の特徴として見出すことを目的としている。

実際に、北野地区において観光客はどのような眺めを

好み訪れているのか、またどのような眺めが得られるのかを抽出するため伝統的建造物群保存地区と観光地のふたつの観点からアプローチすることとした。具体的な研究方法としては、異人館などの歴史的建造物の把握とともに観光としての活用方法の把握、それをもとに観光用として建てられている観光施設のタイプや分布を把握する。観光資源としての歴史的建造物の実態を捉え、その特徴を把握を試みた。

4. 北野地区

(1)北野地区の特徴

都市の近代化の過程で形成された建築や構造物等の文化遺産を保存活用する例は増加傾向にある。とくに、建造物は単体としてだけでなく、街並み景観を構成する建造物群として評価されることが多く、観光資源となる性格をもっており、多少なりとも周辺地域と相まって観光地化に結びついてしまう²⁾。北野地区は1977年にドラマ「風見鶏」が放送されてから多くの観光客が訪れるようになった。そのため1979年に神戸市景観形成地域に指定しており、同時期に伝統的建造物群保存地区（以下、伝建地区という）に指定されるなど迅速な措置がされ、地区全体の保存及び洋風建造物34件、和風建造物7件が伝統的建造物（以下、伝建という）として保存されている（表-3；図-9）。

建造物単体だけでなく、細い坂道が多く塀や石垣に囲まれた空間も特徴のひとつとなっており、小径から海を垣間みることもできる。異人館は南に庭を設け、窓からは港が一望できるなど当時の眺めの対象は港であったことがうかがえる。また、連続した石垣が歴史的風景をつくっていたり、非公開異人館も小径から見ることができするなど、さまざまな景観を得ることができる。それに加えて、多くの観光施設が建ち並ぶことで多くの観光客を魅了している（図-10）。

表-3 伝統的建造物

洋風	1	旧トーマス邸(風見鶏の館)	21	旧スタデニク邸
	2	小林家住宅(萌黄の館)	22	旧グラシアニ邸
	3	旧ドレウェル邸(ラインの館)	23	ボリビア領事館
	4	旧フデセック邸(英国館)	24	門兆満邸(旧A.P.デイスレッセン邸)
	5	シュウエケ邸	25	キャセリンアンダーセン邸
	6	ヒルトン邸(旧パナマ領事館)	26	上久保邸
	7	旧フェレ邸(ベンの家)	27	高木・渋谷邸
	8	旧アメリカ領事館官舎(ホワイトハウス)	28	ヴォルヒン邸
	9	バラストン邸	29	寺西邸
	10	鄭寓邸	30	旧榊田・橋邸(洋館長屋)
	11	旧トーセン邸	31	モッシュ邸西棟
	12	チャン邸(旧サッスーン邸)	32	モッシュ邸東棟
	13	ムーア邸	33	バジャージ邸
和風	14	レイン邸	34	旧アボイ邸
	15	山田邸	35	山口邸
	16	片桐・山本邸	36	JR西日本三宮ゲストハウス
	17	林邸	37	佐野邸
	18	マリニン・フタレフ邸	38	浄福寺本堂
	19	丹生邸	39	神戸女子短大北野寮
	20	神戸架橋総会	40	前田邸
			41	天満神社

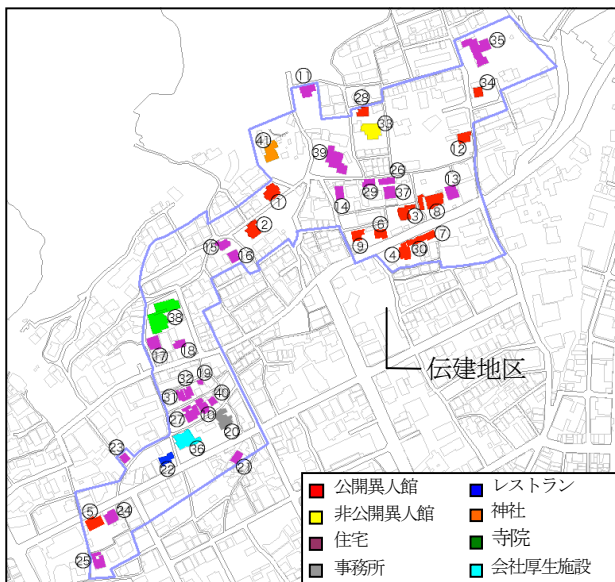


図-9 伝統的建造物群保存地区と伝統的建造物



a) 塀が続く坂道



b) 石垣と塀に囲まれた小径



c) 海が見える小径



d) 石垣が続く通り

図-10 北野地区にみる景観の特徴

(2) 伝建地区と観光地

伝建以外にも歴史的建造物は多く現存し、「公開異人館」として観光に活用されている。そのため北野地区界限にはブティックや土産物店といった観光施設が建ち並んでいる。観光雑誌である「まっぷるマガジン⁴⁾」, 「るるぶ情報誌⁵⁾」, 「神戸 Best Guide⁶⁾」から北野地区の紹介内容を見ると、伝建地区 (9.3ha) を大きくカバーする範囲で公開異人館とともに観光施設が紹介されている (図-11)。街並みのいわれや伝建地区の歴史的背景よりも歴史的建造物を要素にしたカフェや雑貨店、異国情緒やレトロといったイメージと、ショッピングや飲食等が結びついた複合的な魅力を醸し出している。ここでは、一般公開されている歴史的建造物を観光資源、非公開のものを景観資源とし表記している。ともに半数の割合となっており、地区全体に散在していることがわ

かる。加え、観光施設が多く存在していることから景観資源としての建造物にも観光資源としての役割を担っており、本来の魅力以上のものが生まれていると考えられる。

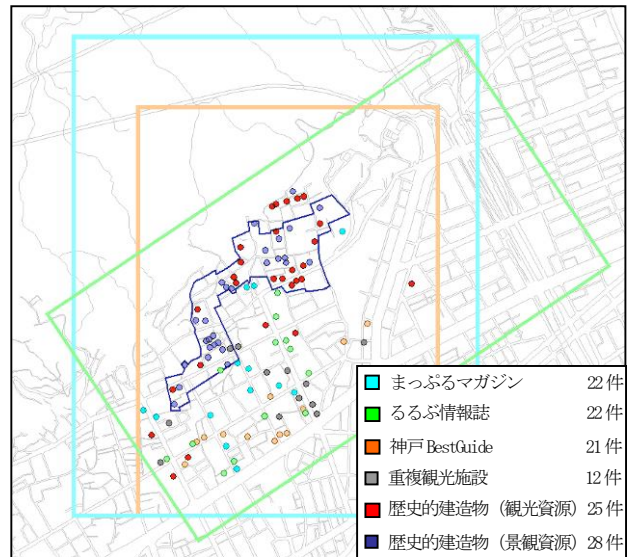


図-11 観光地としての北野地区

5. おわりに

北野地区において伝建地区と観光地の観点から探ることとで歴史的建造物を観光資源に周辺地域にひろがりをみせていることがわかった。

今後は、伝建地区周辺にひろがる観光施設と歴史的建造物との関係を観光客の実測データを用いたネットワーク空間分析により多く利用される観光ルートを把握するとともに、歴史的建造物の見え方を分析することで北野地区の特徴を探りたいと考えている。また、当時は港を対象の眺めとして形成された地区が、現在では、建造物を対象に賑わいをみせているという仮定をもとに変遷景観を追うことも必要であると考えている。

参考文献

- 1) 竹内陽, 吉川眞, 田中一成: 神戸における景観分析, 地理情報システム学会講演論文集, Vol. 17, pp. 587-590, 2008
- 2) 堀野正人: 観光地化される都市の近代化遺産, 研究季報, Vol. 17, No. 2, 2006
- 3) 神戸市教育委員会: 異人館のある町並み 北野・山本通, イディー, 2000
- 4) 前家修人: まっぷるマガジン, 昭文社, 2009
- 5) 内山弘美: るるぶ情報誌, JTBパブリッシング, 2009
- 6) 新倉砂穂子: 神戸 Best Guide, 成美出版堂, 2009